

国語科学習評価シート

1、2年生

3、4年生

5、6年生

		評価規準に盛り込むべき事項		
A 話すこと・聞くこと		・相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたり、話題に沿って話し合ったりしようとしている。	・相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたり、進行に沿って話し合ったりしようとしている。	・目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話したり、話し手の意図をつかみながら聞いたり、計画的に話し合ったりしようとしている。
		・話したい聞きたいという願いをもち、進んで話したり聞いたりしようとしている。	・話の構成や内容への関心を深め、工夫をしながら話したり聞いたりしようとしている。	・立場や意図をはっきりさせながら、適切に話したり聞いたりしようとしている。
B 書くこと		・経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書こうとしている。	・相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書こうとしている。	・目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えながら書こうとしている。
		・自分の思いを書いて伝えることよさを見付けたり楽しさを感じたりしながら、進んで書こうとしている。	・自分の考えが明確になるように、工夫をしながら書こうとしている。	・自分の考えを明確に表現するため、適切に文章を書こうとしている。
C 読むこと		・書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりして読もうとしている。	・目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら、本や文章を読もうとしている。	・目的に応じ、内容や要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながらか本や文章を読もうとしている。
		・知識を得たり好きなところを紹介したりするために、本を選んで、楽しんで読書しようとしている。	・読んで感じたことや考えたことを明らかにしながら、幅広く読書しようとしている。	・読書を通して自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
A 話すこと・聞くこと		・身近なことや経験したことなどから話題を決めている。(ア)	・関心のあることなどから話題を決めている。(ア)	・考えたことや伝えたいことなどから話題を決めている。(ア)
		・話題に合わせて、必要な事柄を思い出している。(ア)	・必要な事柄について調べ、要点をメモしている。(ア)	・収集した知識や情報を関係付けている。(ア)
		・相手に応じて、話す事柄を順序立てている。(イ)	・相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てている。(イ)	・目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫している。(イ)
		・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話している。(イ)	・丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話している。(イ)	・場に応じた適切な言葉遣いで話している。(イ)
		・姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話している。(ウ)	・相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話している。(ウ)	・共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話している。(ウ)
		・大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。(エ)	・話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりしている。(エ)	・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめている。(エ)
	・互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合っている。(オ)	・互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合っている。(オ)	・互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合っている。(オ)	
B 書くこと		・経験したことや想像したことなどから書くことを決めている。(ア)	・関心のあることなどから書くことを決めている。(ア)	・考えたことなどから書くことを決めている。(ア)
		・書こうとする題材に必要な事柄を集めている。(ア)	・相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べている。(ア)	・目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している。
		・自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(イ)	・文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成している。(イ)	・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えながら書いている。(イ)
		・語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書いている。(ウ)	・書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書いている。(ウ)	・事実と感想、意見などを区別して書いている。(ウ)
		・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正している。(エ)	・文章の敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(エ)	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。(ウ)
		・書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合っている。(オ)	・文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりしている。(オ)	・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書いている。(エ)
		・書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合っている。(カ)	・表現の効果などについて確かめたり工夫したりしている。(オ)	・書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合っている。(カ)
C 読むこと		・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(ア)	・内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読している。(ア)	・自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をしている。(ア)
		・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読んでいる。(イ)	・説明したり必要な情報を得たりするための目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読んでいる。(イ)	・自分の課題を解決したり、本の推薦をしたりするための目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫している。(イ)
		・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。(ウ)	・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読んでいる。(ウ)	・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながらか読んでいる。(ウ)
		・文章の中の大事な言葉や文を書き抜いている。(エ)	・目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりしている。(エ)	・目的に応じて、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読んでいる。(ウ)
		・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合っている。(オ)	・文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(オ)	・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめていく。(エ)
		・楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読んでいる。(カ)	・紹介や説明をしたり、必要な情報を得たりするための目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読んでいる。(カ)	・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)
			・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読んでいる。(カ)	
A 話すこと・聞くこと		・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて話したり聞いたりしている。(イ(ア))	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて話したり聞いたりしている。(イ(ア))	・話し言葉と書き言葉との違いに気付いて話したり聞いたりしている。(イ(ア))
		・アクセントによる語の意味の違いに気付いて話したり聞いたりしている。(イ(イ))	・話したり聞いたりするために必要な語句を増している。(イ(イ))	・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いて話したり聞いたりしている。(イ(イ))
		・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて話したり聞いたりしている。(イ(ウ))	・修飾と被修飾との関係をはっきりさせて話したり、それらに注意して聞いたりしている。(イ(ウ))	・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて意識して話したり聞いたりしている。(イ(ウ))
		・文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。(イ(カ))	・文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。(イ(カ))	・文や文章にはいろいろな構成があることに理解している。(イ(カ))
		・敬体で書かれた文章や敬体を用いた話し方に慣れている。(イ(キ))		・日常よく使われる敬語の使い方について慣れている。(イ(キ))
				・比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(イ(キ))
		・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて文や文章を書いている。(イ(ア))	・長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、自分の文章の中で使っている。(イ(ア))	・古典について解説した文章を基に、昔の人のものの見方や感じ方を理解している。(イ(ア))
		・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて文や文章を書いている。(イ(カ))	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることを理解して文章を書いている。(イ(ア))	・話し言葉と書き言葉との違いに気付いて書いている。(イ(ア))

B 書くこと	・長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使っている。(イ(エ))	・漢字と仮名を用いた表記の利点に気付いている。(イ(イ))	・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いて書いている。(イ(イ))
	・句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。(イ(オ))	・送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもっている。(イ(ウ))	・送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(イ(ウ))
	・文の中における主語と述語との関係に注意して文や文章を書いている。(イ(カ))	・句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書いている。(イ(エ))	・語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに意識を向けている。(イ(エ))
	・敬体で書かれた文章に慣れ、敬体で書いている。(イ(キ))	・表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解し、書いている。(イ(オ))	・文章の中での語句と語句との関係を理解している。(イ(オ))
	・平仮名及び片仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語の種類を理解して文や文章の中で使ったりしている。(ウ(ア))	・表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けている。(イ(カ))	・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて意識して書いている。(イ(カ))
	・第1学年に担当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(第1学年)(ウ(イ))	・修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもっている。(イ(キ))	・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。(イ(キ))
	・第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に担当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(第2学年)(ウ)	・文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。(イ(ク))	・日常よく使われている敬語の使い方に慣れている。(イ(ク))
	[書写]・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書いている。(ア)	・日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(第3学年)(ウ(ア))	・比喩や反復などの表現の工夫に気付き、自分の表現に用いている。(イ(ク))
	[書写]・点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。(イ)	・当該学年の前の学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に担当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(ウ)	・当該学年の前の学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に担当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(ウ)
		・漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもち、文や文章を書く際に使っている。(ウ(ウ))	・仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(ウ(イ))
	[書写]・文字の組立て方を理解し、形を整えて書いている。(ア)	・[書写]用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書いている。(ア)	
	[書写]・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書いている。(イ)	・[書写]目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書いている。	
	[書写]・点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書いている。(ウ)	・[書写]毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書いている。(ウ)	

C 読むこと	・昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりしている。(ア(ア))	・易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりしている。(ア)	・親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読している。(ア(ア))
	・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。(イ(ア))	・長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(ア(イ))	・古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を理解している。(ア(イ))
	・音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付いて声に出して読んでいる。(イ(イ))	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。(イ(ア))	・話し言葉と書き言葉との違いに気付いて文章を読んでいる。(イ(ア))
	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて文や文章を読んでいる。(イ(ウ))	・漢字と仮名を用いた表記などに関心をもち、文や文章を読んでいる。(イ(イ))	・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いて文章を読んでいる。(イ(イ))
	・文の中における主語と述語との関係に注意して文や文章を読んでいる。(イ(カ))	・理解するために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解している。(イ(オ))	・語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに意識を向けている。(イ(エ))
	・敬体で書かれた文章に慣れている。(イ(キ))	・理解するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けている。(イ(カ))	・文章の中での語句と語句との関係を理解している。(イ(オ))
	・平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。(ウ(ア))	・修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもっている。(イ)	・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて意識して文章を読んでいる。(イ)
	・第1学年に担当されている漢字を読んでいる。(第1学年)(ウ(イ))	・指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解している。(イ)	・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。(イ(キ))
	・第2学年までに担当されている漢字を読んでいる。(第2学年)(ウ(ウ))	・日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読んでいる。(第3学年)(ウ(ア))	・日常よく使われる敬語の使い方に慣れている。(イ(ク))
		・当該学年までに担当されている漢字を読んでいる。(ウ(イ))	・比喩や反復などの表現の工夫を理解している。(イ(ク))
	・漢字のへん、つくりなどの構成について理解している。(ウ(ウ))	・当該学年までに担当されている漢字を読んでいる。(ウ(ア))	
		・仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(ウ(イ))	